

令和 5 年度取り組み内容および達成状況(2023)

1<中長期目標>

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸長させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④泉州地域を代表する進学実績をあげ、大阪を代表するスポーツ校として浪商ブランドを確立する。

2<重点目標>

☆スポーツと進学の2本を柱にした学校の構築を目指すため、次の2点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。

- ①学習活動を充実させる。
- ②部活動において成果を発揮する。

☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。

- ③進学指導マネジメントシステムの構築
- ④進学実績の成果向上
- ⑤中高一貫体制の確立

☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。

- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
- ⑦人権教育・安全教育の充実

3<目標達成状況>および<今後の課題と取り組み>

重点目標	令和5年度 具体的な取り組み内容と達成状況	令和6年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学習マネジメント委員会と関係部署で検討と提案を行った *全コースで朝学習に取り組み、学年、コースごとに効果と検証を行った<A> *ipadの効果的な活用及び研究を各教科中心に行った<A> *次年度のカリキュラム再編成に向けた研究、検証を行った *授業力向上の研修や取り組み ・カリキュラム再編成後に進級規定(成績評価・追試・出校日数等の在り方など)を見直すための課題整理を行った ・進路実現のため、土曜日に進学講習、自習室を開設する等の取り組みを行った<A> ・早朝、放課後に校内学習に取り組む生徒もいるため、設問内容を「家庭学習時間」から「学習に取り組む時間」に変更した。学年、コース間の数値差等の検証と対策を継続して行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高各教室のホワイトボード、最新の大型プロジェクター導入、iPadの効果的な利用、ICTの更なる活用と授業研究を行う ・令和7年度カリキュラム再編成に向け、委員会で協議を重ね、計画、立案する ・進級規定(成績評価・追試・出校日数等の在り方など)の見直しを行う ・コース間の授業肯定率の差異について検証する ・学年が上がるに伴い学習時間は増加するが、入学後の早い時期から学習習慣を高める対策を再検討する ・進路実現に向けた進学講習、進路ガイダンス等については各コースの活動内容、生徒のニーズに合わせた形態、内容に改善する ・新コース4年目を迎える。各コースの目標、特色を踏まえ、効果的かつタイムリーな働きかけを行い、生徒一人一人の進路実現を支援する

<p>② 部活動の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿大会、全国大会、アジア大会、世界大会へ出場するなど大きな成果を果たした<S> ハンドボール部・女子バスケットボール部 女子硬式野球部・レスリング部・陸上部・水泳部 女子バレーボール部・柔道部・日本拳法部 NSC(空手、競技エアロビ、スキーモーグル) ・クラブごとの目標達成に向けた取り組みから、一定の成果が表れてきた<A> ・文化部員数確保のための働きかけ ・文化部員減少に伴い、活動が困難になりつつある<C> 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に各クラブ員一人一人が活発に活動できるよう支援する ・運動部全体が一つになれば学校全体の活性化に繋がる。協力体制を強化できる取り組みを行う ・クラブ掲示板を用いて、各クラブの大会情報等を共有し、学校全体で応援できる雰囲気作りに努める ・SNS を活用し、各クラブの取り組み、成果、魅力についても発信を続けていく ・文化部合同イベントの開催、文化部間また地域との連携を通じた活動も視野に入れ、部員一人一人が活躍できる機会を設ける ・進学未来型探究領域生徒の行事やクラブ活動への参加率が低下。コースによるクラブ加入率低下への対処とクラブに変わる活動の検討を行う
<p>③ 進学マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路指導部が連携し、共通理解を図った<A> ・進路関連行事は学年と進路指導部が連携をして立案、運営を行った<A> ・模試の結果資料の活用と分析を系統的に行った<A> ・進路実現のために土曜日に大学や専門学校などを招き、年間を通してガイダンスを実施した<A> 	<ul style="list-style-type: none"> ・コースごとの進路説明会、進路関係の取り組みについての点検と整備 ・進路希望アンケートを活用した進路関連行事を開催する ・高3年生への進路検討会を複数回開催し、学年全体で進路指導を行う ・進路実現のために大学や専門学校などを招き、年間を通して進路ガイダンスを全生徒が参加しやすい日時に開催する
<p>④ 進学実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大 5名以上 → 2名 関関同立 10名以上 → 9名 産近甲龍レベル 60名以上 → 44名 摂神追桃レベル 60名以上 → 58名 医療系大学・専門学校 20 → 33名 大阪体育大学(内推枠) 58名 → 46名 (体育学部 43→38、教育学部 15→8) ・A0, 指定校及び内部推薦受験者のグループと一般推薦、一般入試を受験する生徒の両輪で指導することで進路実績を上げた(現役進路確定率98%)<S> ・提携校との連携を推進し、27名の生徒が進学した<S> 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大、関関同立、産近甲龍、大阪体育大学、提携大学、看護医療系の目標合格数達成に向けて、全教員で全生徒を全力でサポートする ・希望進路実現に向け、1人ひとりの生徒に丁寧な対応を行い、その結果として進路実績に繋げる ・A0, 指定校及び内部推薦受験者のグループと一般推薦、一般入試を受験する生徒の両輪で指導する ・提携校との交流会、体験会を通して、幅広く進路や将来を考える機会を提供していく

<p>⑤ 中高一貫体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科、分掌、委員会等の会議を中高合同で進める中、学習指導、校務運営等において、課題も明確になってきた ・募集活動においては中高協働をテーマに進めたが、他の業務や時間的な課題も重なり、年間通して一体感ある運用にはいたらなかった ・コロナ禍後、合同開催(文化祭、鑑賞行事)、別開催(体育祭、球技大会)行事への取り組みも工夫が見え、生徒の満足度も高まってきた<S> ・新コース3年が経過。中高一貫のキャリアマネジメントの構築に向けて、接続、連携、交流できる機会については再度の検討が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫体制の確立に向け、連動的かつ効率的な学習指導、校務運営が行われるよう、日々の連携を大切に、細部まで点検した運用を徹底していきたい ・広報部を新体制で活動し、中高とも一体感ある運営をめざす。役割、責任、協働すべき業務等を明確に示し、今まで以上に積極的に活動を進めていく ・合同開催、別開催ともに、更に生徒が主体的に運営し、取り組める行事に発展できるよう活動を積み上げていきたい ・キャリア、学習、部活動、様々な活動において、高校生が中学生をリードし、交流できる機会の提供に努める
<p>⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学校生活を過ごすことができるよう、生徒指導面の投げかけ、働きかけを行った<A> ・SNSは人間関係等のトラブルを招く、大きな社会問題となっている。生徒たちへの定期的な指導と呼びかけを繰り返し行った<A> ・連絡ツールの整備とルール作りを行い、タイムリーかつスムーズな情報提供と共有を行った 生徒連絡「Classi」、保護者連絡「さくら連絡網」、教員間連絡「Gmail」<A> ・学年ごとに定期的な巡回を行い、教員全体で生徒たちを見守る雰囲気構築できつつある<A> ・生徒会組織の再構築を図り、浪商祭を生徒主体の行事として取り組ませることができた <A> 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則、食堂利用に関するルール等について生徒たちに働きかけ、より主体的に学校生活を考えていける機会を増やしていく ・各学期に生徒、保護者へ注意喚起文を配布するとともに、朝終礼、授業、集会等の機会も利用し、粘り強い働きかけを継続していく ・全教員が iPad を利用。今まで以上に校内情報を円滑にタイムリーに共有できるよう努めていく ・授業、登下校、全ての活動において教員全体が生徒たちを見守る雰囲気と体制を構築したい ・生徒主体で取り組む機会を提供し、活動実績を積み上げていく
<p>⑦ 人権教育・安全教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「HR」「総合的な探究の時間」の年間計画を策定し、一部修正を加え、系統的に指導を行った<A> ・相談室、保健室、学年との連携をはかり、生徒情報の共有に努めた。個々の様々なケースに臨機応変な対応が必要であり、課題も多い ・LGBTQに関する教員研修を行い、多様性についての理解を深めることができた<A> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「HR」「総合的な探究の時間」の3年計画を充実した内容にするため、修正、改善を加える ・今後もケース会議等を通して、個々の特性にそって丁寧に対応できるよう努めていく ・人権、安全に関するテーマの教員研修、生徒対象講演会を今年度も実施する 「救急救命講」「熱中症対策」「命の教育」など

※達成状況は次の5段階評価で示す

<S>よく達成できた <A>まあまあ達成できた どちらとも言えない
<C>あまり達成できていない <D>まったく達成できていない

【学校関係者評価及び学校診断アンケートの結果報告】

「令和5年度の取組内容及び自己評価」、生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。

1) 学校の現状

- ・ 中学も高校もほぼ定員を確保できている。
- ・ 併願の戻り率が年々下がっている。
- ・ ICT 教育がどんどん進む中、先生方はいろいろなことに対応していかなければならない。ますます大変になっていく。
- ・ 次年度プロジェクターを最新のものに、黒板をホワイトボードにリニューアル予定。
- ・ 進路実現のための取り組みを充実させた（進学ガイダンス、進学講習、3年生専用の自習室確保、提携校の充実等）
- ・ 今年も全国大会に多数出場した。
- ・ 生徒会の活動がより活発になっている。
- ・ 仁川大学への語学研修を実施（希望制）。

2) 質問

- ・ 高校無償化の影響はありそうか。→現時点では大幅に受験生が増えたわけではないが、完全無償化となると専願生増につながるかもしれない。
- ・ 部活動の加入率はどれくらいか。→中高とも8割前後の加入率である。
- ・ 部活動の在り方を考えていかなければならない。
- ・ コロナの影響はどうか。→特に影響はない。行事もすべてコロナ前の状態になった。
- ・ 大学との情報共有はどのようになっているのか。→定例の連携会議で情報共有ができるようになってきた。今後はもっとスムーズにいろいろなことが進んでいくと思う。

3) 意見

- ・ 保護者の肯定率が少し下がったのは残念であるが、生徒の肯定率が年々上がっているのは素晴らしい。それぞれの結果を分析し、次年度に活かしていかなければならない。
- ・ 少子化進んでいく中、安定した定員を確保するために、コース改編も視野に入れ、魅力のある学校にしていなければならない。
- ・ 登下校の通学マナーについて注意喚起が必要。生徒指導部でも頻繁に指導を行っているが、継続して指導していく。
- ・ 大阪体育大学への内部進学希望者を増やすために、出前授業等ができれば。

開催日：

- 令和6年08月04日(土) 学校関係者評価
- 令和6年10月22日(火) 学校関係者評価

出席者：

- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤哲士
- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 北川浩司
- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田倫史
- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本雅彦
- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室長 植村大樹
- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 篠山久美子
- 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 松田博志
- 大阪体育大学 スポーツ科学部スポーツ科学科長
兼体育学部スポーツ教育学科長 曾根純也
- 大阪体育大学 スポーツ科学部スポーツ科学科長
兼体育学部健康・スポーツマネジメント学科長 伊原久美子
- 同窓会副会長 古川義高
- 堀博充税理士事務所 堀博充